



# 米国穀物レポート コーン・大豆

2015年9月14日

日本テクニカルアナリスト協会

検定アナリストCFTe

玉川博一

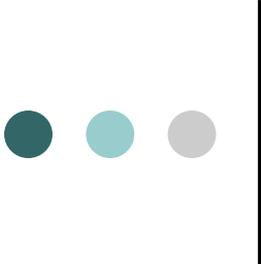
9月発表USDA需給報告

概要と分析

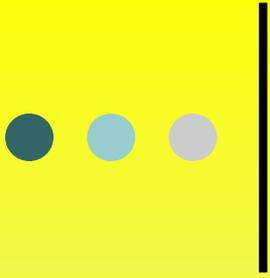
出所：米国農務省



 岡安商事株式会社



このレポートは投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。先物取引は大きなリスクを被る恐れがあり、すべての投資家に適切な取引ではありません。また、銘柄の選択および投資の最終判断およびその責任はお客様自身でなさるようお願い致します。このレポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、岡安商事(株)および執筆者は、この正確性、完全性、適時性に関する責任を負いません。このレポートに示した意見は、レポートの作成日現在の意見を示すものです。チャートラインなどには、執筆者の主観が入っている場合があります。商品先物取引は元本が保証されているものではなく、短期間で大きな利益を得る可能性もありますが、投下資金の数十倍以上の額を取引する証拠金取引であるため、相場の変動により投下資金以上の損失が生じることもあります。お取引にあたっては充分にご検討下さい。当社ディスクローズ資料は当社本支店または日本商品先物取引協会でご覧いただけます。



# とうもろこし (Corn)

# 9/11日USDA発表

## 2015／16年度米国コーン

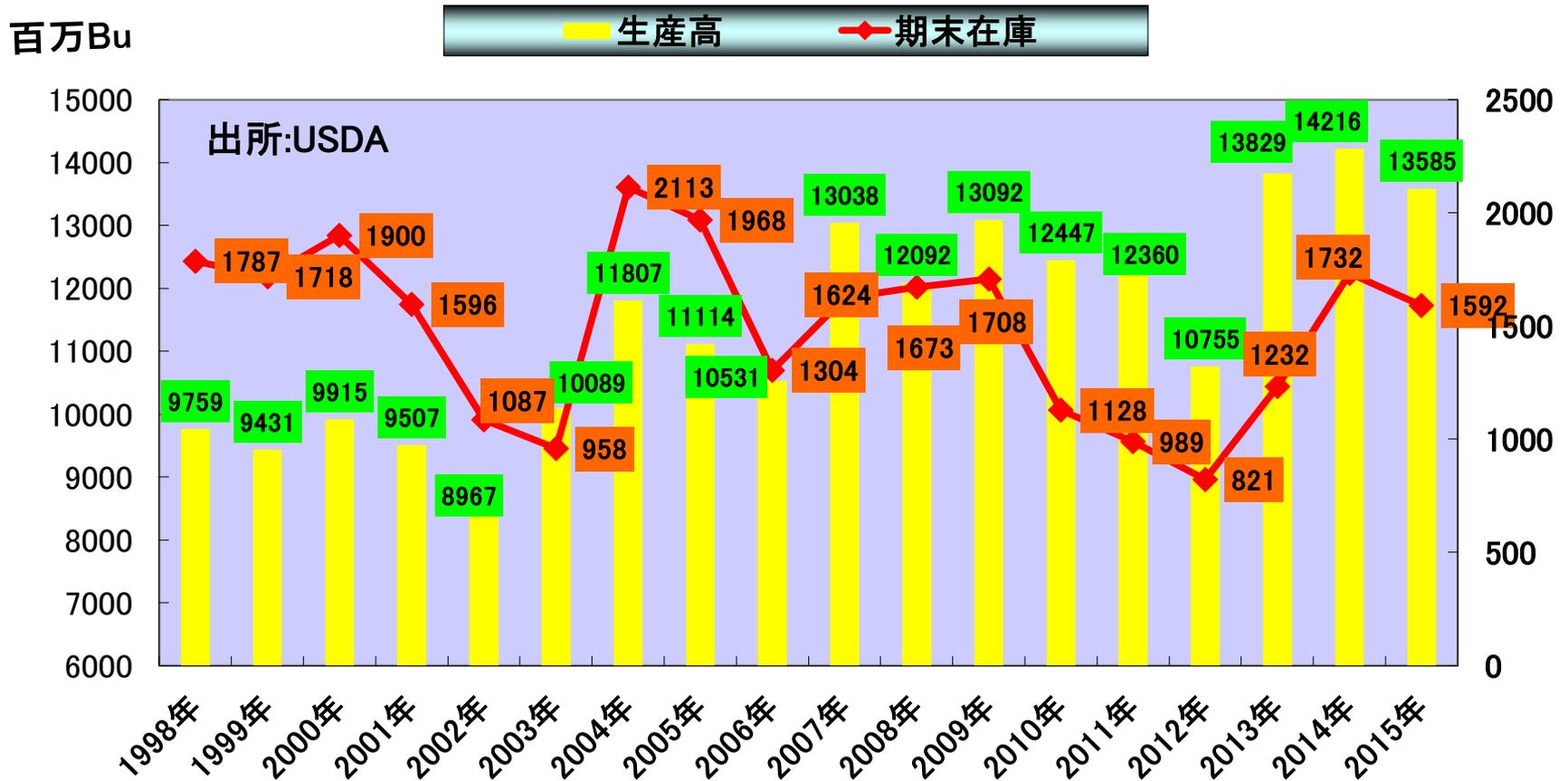
作付面積	:	8890万エーカー	(	8890万エーカー)
収穫面積	:	8110万エーカー	(	8110万エーカー)
単 収	:	167.5Bu	(	168.8Bu)
期首在庫	:	17億3200万Bu	(	17億7200万Bu)
生 産	:	135億8500万Bu	(	136億8600万Bu)
輸 入	:	3000万Bu	(	3000万Bu)
供給合計	:	153億4700万Bu	(	154億8800万Bu)
飼料用	:	52億7500万Bu	(	53億0000万Bu)
食品・種・工業用	:	66億3000万Bu	(	66億2500万Bu)
内エタノール	:	52億5000万Bu	(	52億5000万Bu)
輸 出	:	18億5000万Bu	(	18億5000万Bu)
消費合計	:	137億5500万Bu	(	137億7500万Bu)
期末在庫	:	15億9200万Bu	(	17億1300万Bu)
在庫／消費率	:	11.6%	(	12.4 % )

# 米国コーン生産高は135億8500万Buと1億100万Buの下方修正。

- イールドを前月からから1.3Bu引き下げ167.5Buとしましたが、予想平均166.6Buを上回りました。新穀コーン生産高見通しは135.85億Buと前月から1.01億Buの引き下げとなりました。
- 旧穀米国コーン期末在庫を輸出、工業用需要の引き上げで17.32億Buに下方修正し、予想平均の17.70億Buを下回りました。
- 新穀2015/16年度は期初在庫、生産高の引き下げで期末在庫を15.92億Buに下方修正しましたが、予想平均の15.80億Buを上回りました。

# 2015/16年期末在庫は、1億2100万Buの 下方修正

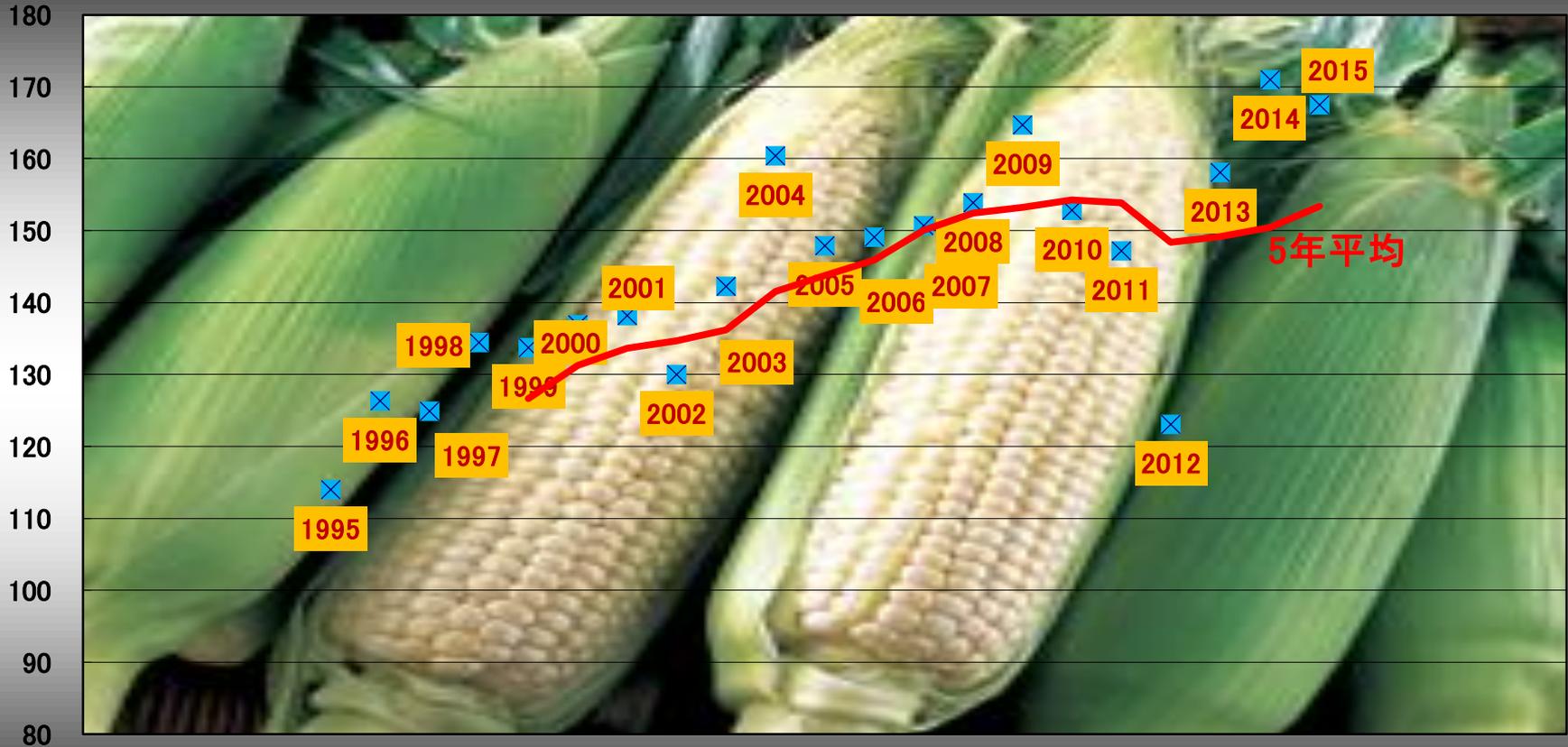
## 米国コーン生産高と期末在庫



# コーンイールド推移

## コーン単収推移過去20年

単位Bu/1エーカー



# コーン主要生産州イールド /1エーカーあたり

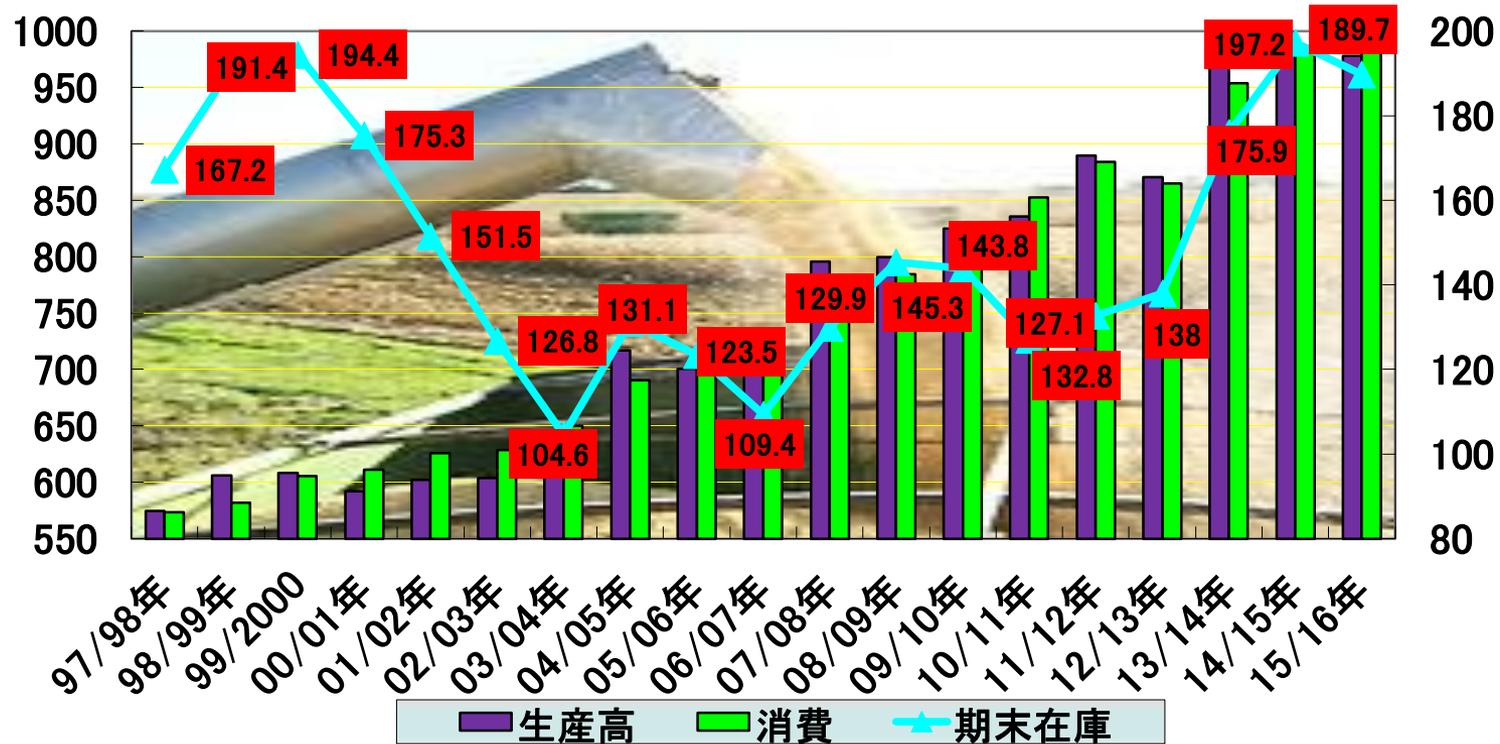
- アイオワ 181Bu(前月183Bu、前年178Bu)
- イリノイ 173Bu(同172Bu、200Bu)
- インディアナ 156Bu(同158Bu、188Bu)
- ミネソタ 183Bu(同184Bu、156Bu)
- ネブラスカ 184Bu(同187Bu、179Bu)

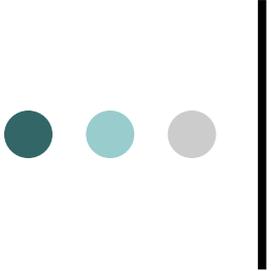
※()内、左前月見通し、右前年

2015/16年世界期末在庫は1億8968万トンと-540万トンの下方修正、予想1億9420万トンを下回る。

## 世界コーン需給

単位:百万トン Date:USDA



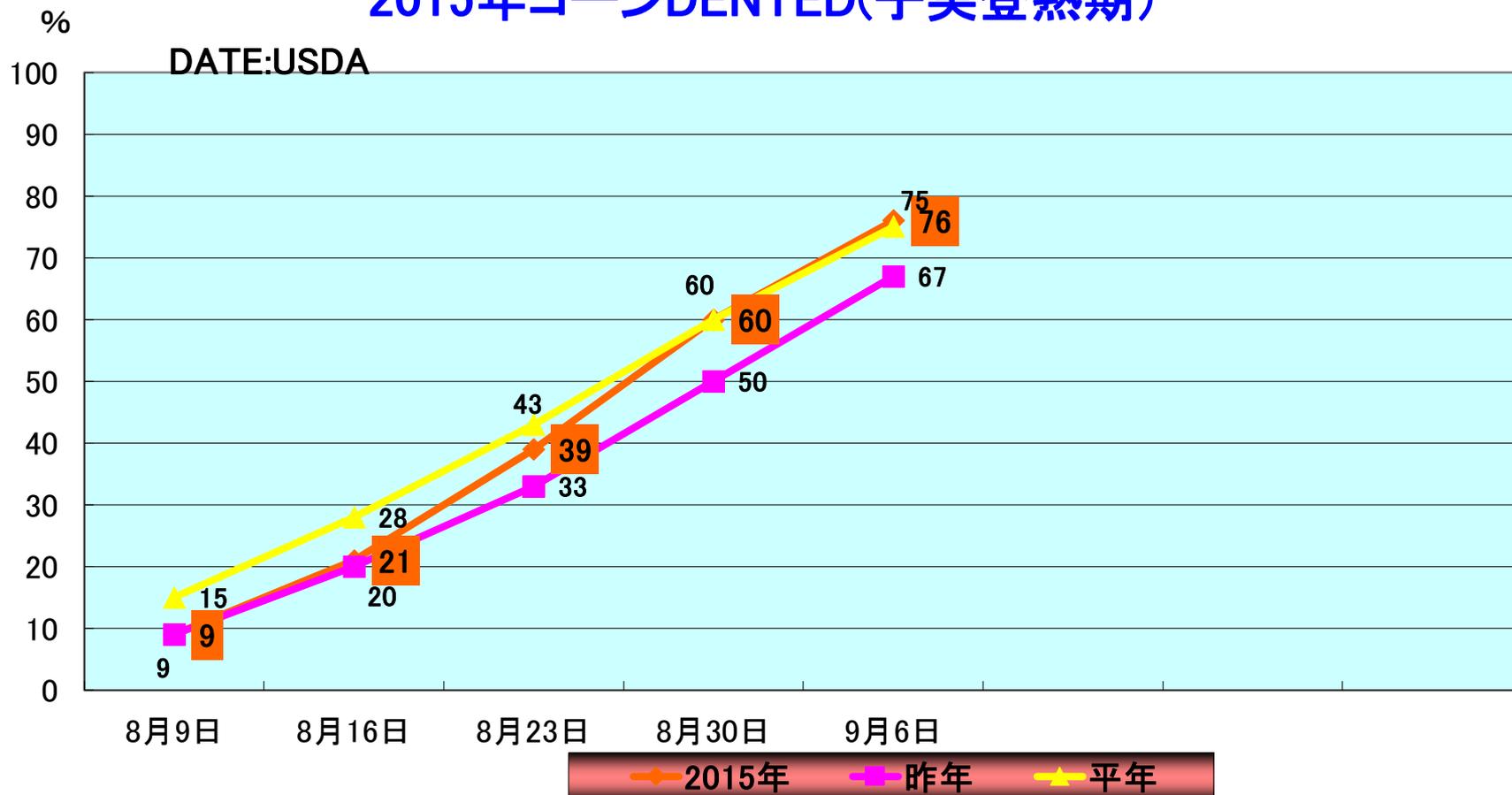


# 世界コーン需給

- 2014/15年世界コーン生産高は、前月から123万トンの引き上げで10億747万トンと史上初の10億トン超えとなりました。南米生産高は、旧穀、新穀とも変化なし。2014/15年世界コーン期末在庫は、1億9721万トンと前月から21万トンの下方修正となりました。
- 2015/16年世界コーン生産高は、欧州東部の干ばつにより、Eu-426万トン（6225→5799万トン）、米国-260万トン（34764→34507万トン）の引き下げにより、9億7809万トンと前月から760万トンの引き下げとなりました。Eu生産高は前年比-23%減の大幅減少となっています。2015/16年世界期末在庫は、1億8968万トンと-540万トンの下方修正となり、予想平均1.942億トンを下回りました。

# 9/6時点デントステージ76%終了 穀粒形成96%とほぼ終了

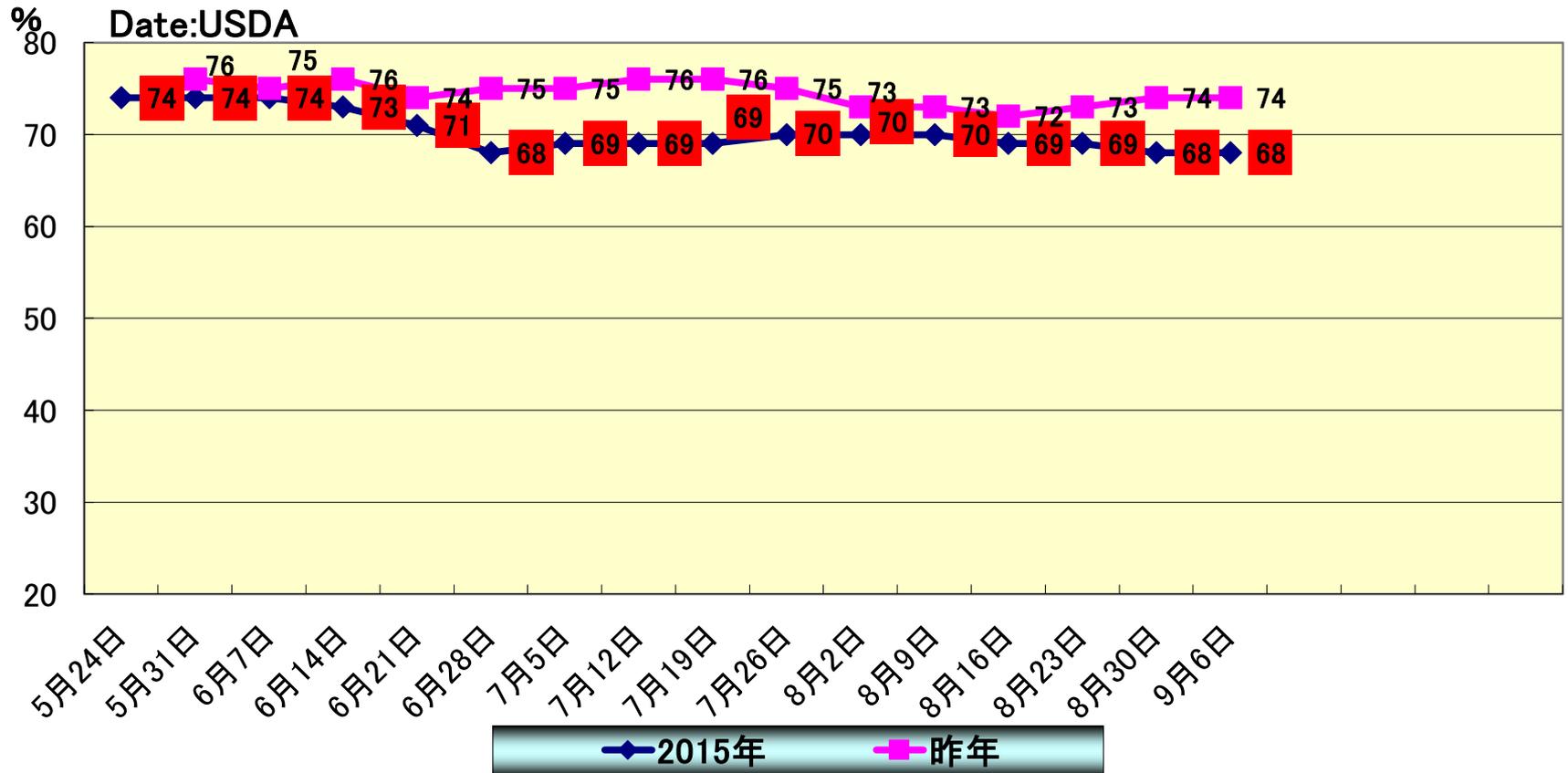
## 2015年コーンDENTED(子実登熟期)

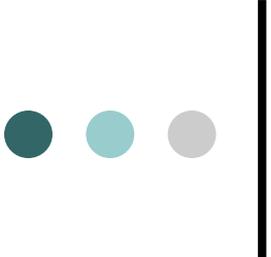


# コーン作柄状況

9/6時点、優+良68%と問題なし

## 2015年コーン作柄状況(主要18州)・優+良比率





# 結論

- 現地視察のイールド見通しが実際にはよくないとの見方から、2億Bu程度の生産高の下方修正が予想されていましたが、生産高は前月比-1.01億Buの135.85億Buと、予想平均の134.93億Buを上回りました。イールドは167.5Buと予想平均166.6Buを上回りました。米国新穀期末在庫は、15.92億Buと1.21億Buの下方修正となりましたが、予想平均の15.80億Buを上回りやや弱い数字となりました。がしかし、イリノイを除く主要生産州のイールドが軒並み下向き改定されたことで来月以降も下方修正期待が高まったことや、世界需給での旧穀新穀期末在庫がとも下方修正されたことが強気と捉えられました。
- 東京コーン先限も7/15-9/7にかけての下げで今年の豊作を織り込み、戻り歩調となっています。8/31の戻り高値を上抜き、8月中旬のもみ合いの上値レジスタンスの25950円あたりまで戻しそうな勢いです。ただ大して強い数字ではなく、戻りは限定的でしょう。

# 東京コーン先限日足





# 大豆 (SoyBean)

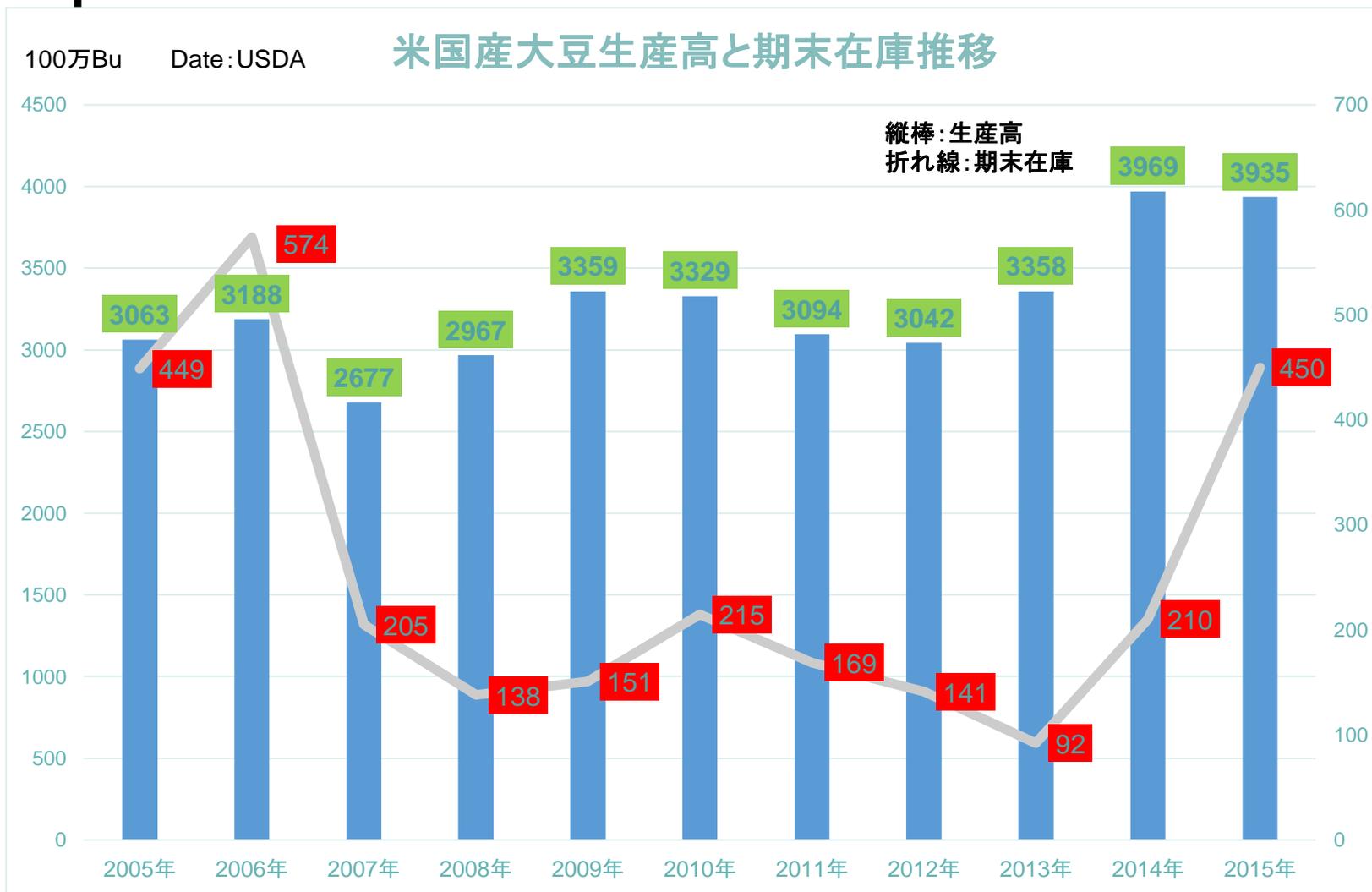
# 9/11発表USDA大豆需給報告

## 期末在庫は4億5000万Buに下方修正

### 2015／16年度

作付面積:	8430万エーカー	( 8510万エーカー)
収穫面積:	8350万エーカー	( 8440万エーカー)
単収	: 47.1Bu	( 46.9Bu)
期初在庫:	2億1000万Bu	( 2億4000万Bu)
生産	: 39億3500万Bu	( 39億1600万Bu)
輸入	: 3000万Bu	( 3000万Bu)
供給合計:	41億7500万Bu	( 41億8600万Bu)
圧砕	: 18億7000万Bu	( 18億6000万Bu)
輸出	: 17億2500万Bu	( 17億2500万Bu)
種子その他:	1億3000万Bu	( 1億3200万Bu)
消費合計:	37億2500万Bu	( 37億1700万Bu)
期末在庫:	4億5000万Bu	( 4億7000万Bu)
在庫率	: 12.0%	( 12.6% )

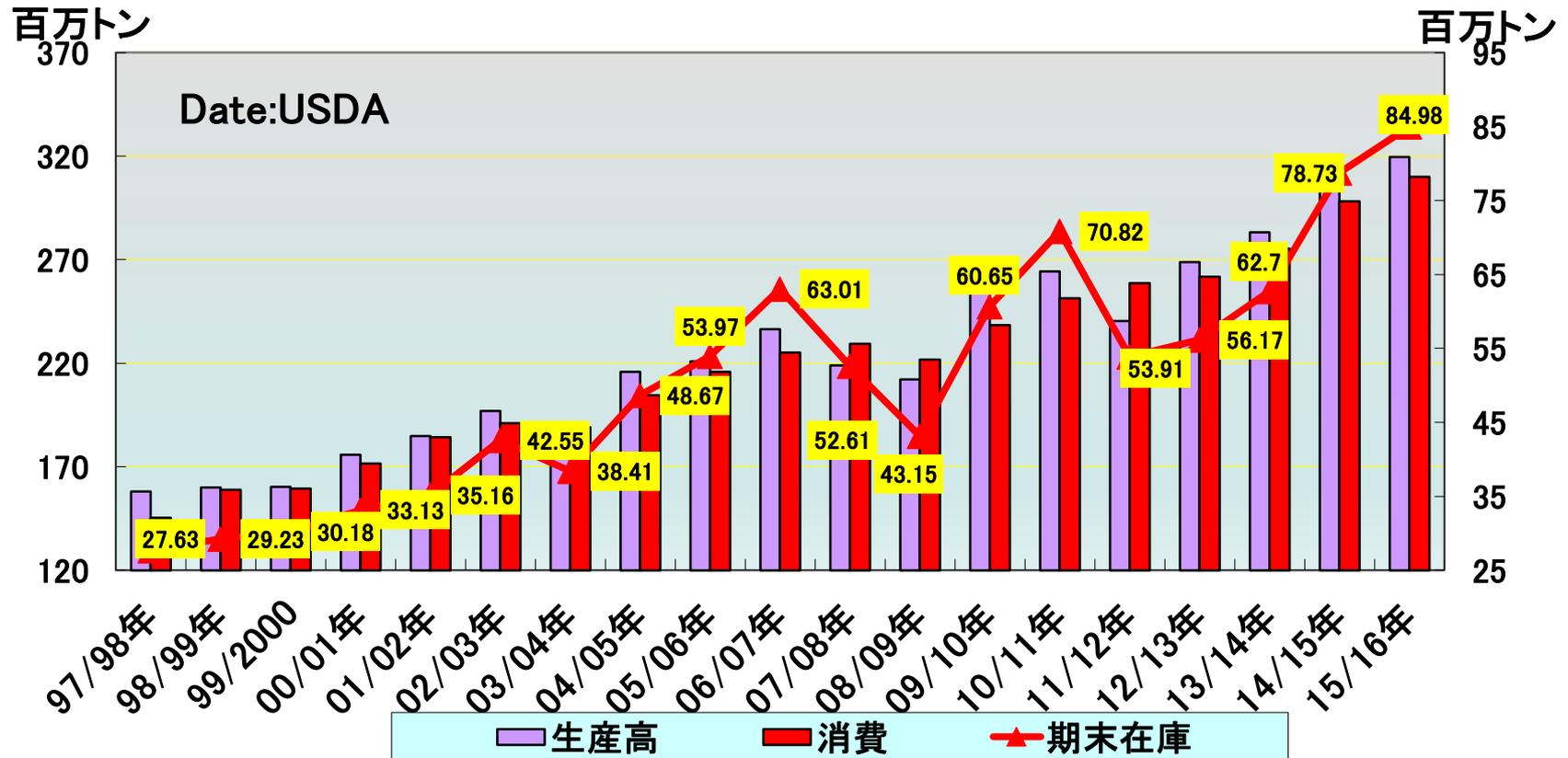
# 2015/16年米国期末在庫は2000万Buの下方修正



# 世界大豆需給推移

2015/16年世界期末在庫8498万トンと、前月から190万トンの引き下げ。

## 世界大豆需給

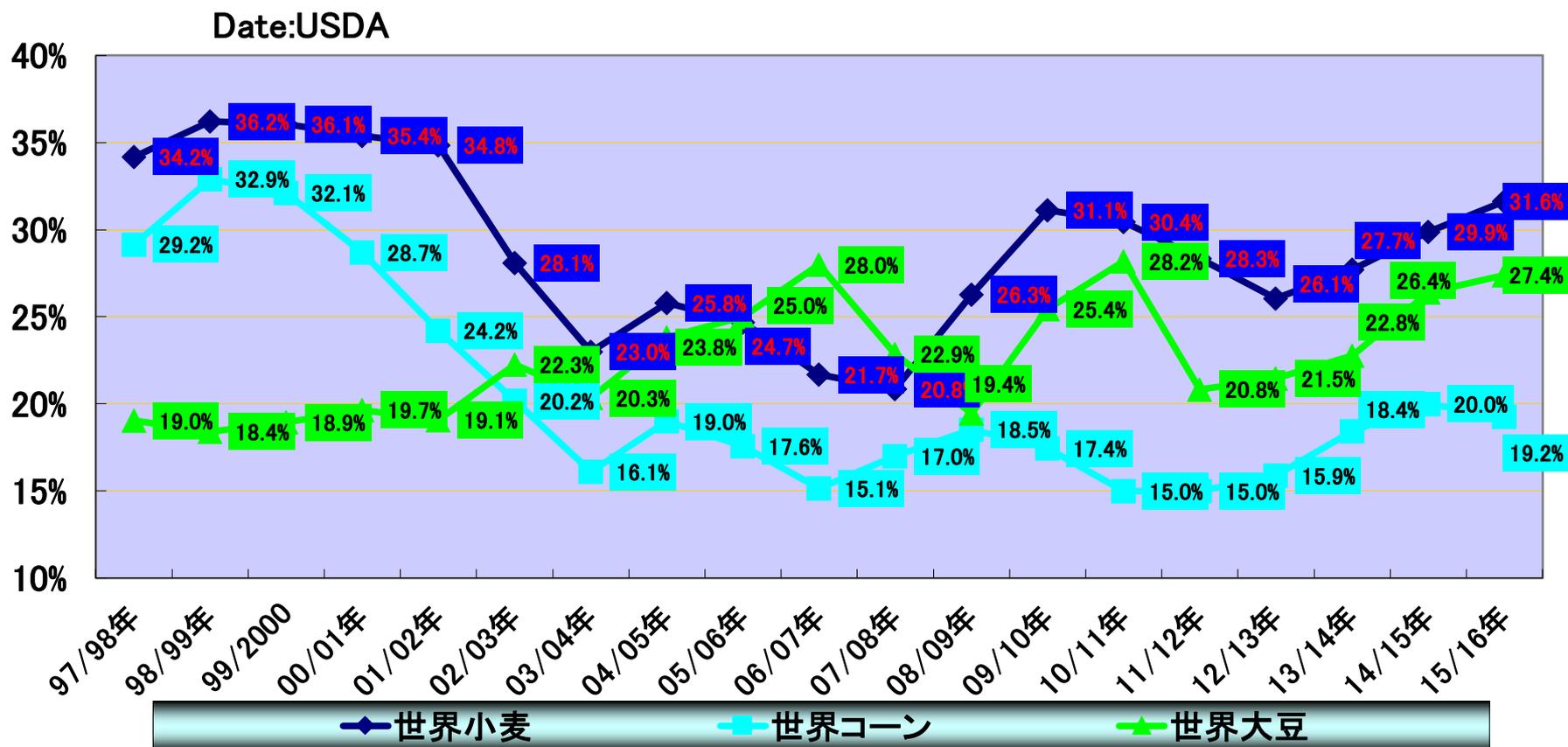


# 世界大豆需給

- 2014/15年度世界大豆生産見通しは3億1936万トンと前月と変わらず。アルゼンチン、ブラジル生産高は、旧穀新穀とも据え置きとなりました。2014/15年世界大豆期末在庫は、7872万トンと予想平均8040万トンを下回り、前月から185万トンの下方修正となりました。
- 2015/16年世界大豆生産高は3億1961万トンとカナダ減産により、43万トンの下方修正、2015/16年世界大豆期末在庫は、米国南米の在庫減で前月から190万トン引き下げて8498万トンとなり、予想平均8650万トンを下回りました。

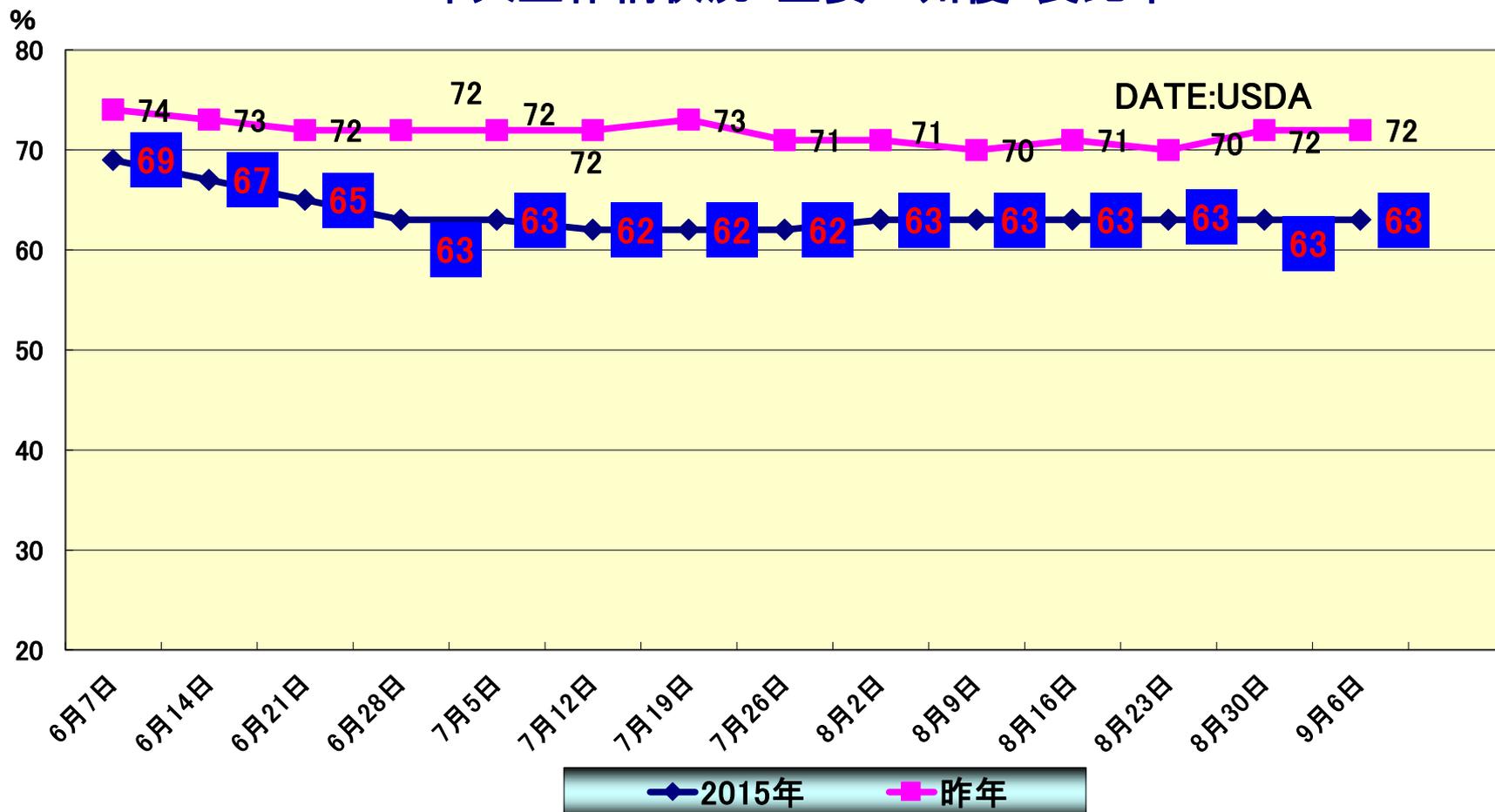
# 世界穀物在庫率推移

## 世界穀物在庫率比較



# 米国大豆作柄状況 9/6時点優+良63%

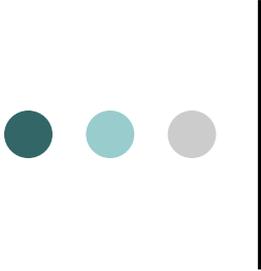
## 2015年大豆作柄状況・主要18州優+良比率



# 結論

- イールドは予想外に0.2Bu引き上げとなり、大豆生産高は39.35億Bu(予想38.38億Bu)と前月から1900万Buの上方修正となりました。ただ旧穀期末在庫が3000万Bu引き下げられたことや圧砕需要が旧穀+4000万Bu、新穀+1000万Bu上方修正されたことにより、結果新穀大豆期末在庫は4.5億Buに引き下げられ予想平均3.96億Buを大幅に上回り、下方修正ながら、弱気の数字となりました。世界需給では在庫が予想以上に減少したとはいえ、強気できる状況ではないでしょう。東京一般大豆先限も7/28安値51800円を割り込み、底抜け、8/25安値45400円で下値出尽くし、目先は底練りで弱持ち合いが続きそうです。
- 9/6現在のクローププログレスによると大豆着さや率96%(平年99%)、落葉率18%(平年16%)と平年並みに進捗している。作柄状況の優+良の比率は、63%と生育に問題ない。





商品先物取引業者：岡安商事株式会社

【本店】

TEL:06-6222-0001 FAX:06-6203-7700

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-3-8

【東京本部】

TEL:0120-342825 FAX:03-5641-1725

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-1-1

日本商品先物取引協会会員  
経済産業省 平成22・12・22商第6号  
農林水産省指令22総合第1351号

・お客様相談窓口

大阪本社管理部

TEL:0120-346-492

東京統括店管理部

TEL:0120-182-461

・商品先物取引苦情相談センター

日本商品先物取引協会(東京)

TEL:03-3664-6243



- ・当社の企業情報は、当社本支店及び日本商品先物取引協会またはそれぞれのホームページで開示されています。
- ・商品先物取引は委託に際して委託者証拠金の預託が必要になります。最初に預託する委託者証拠金の額は商品により異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高140,000円、最低9,600円です。但し、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。また、その額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。  
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高1,150,000円が必要となります。
- ・商品先物取引による取引の額は、最初に預託する委託者証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、対面通常取引の場合は委託者証拠金の額の約15倍から約45倍、対面損失限定取引(スマートCX)の場合は委託者証拠金の額の約2倍から約8倍の額にもなります。
- ・商品先物取引は、相場の変動によって利益も損失も生ずるおそれのある取引です。また、委託者証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その利益や損失も預託している委託者証拠金等の額に比べると高いものとなることがあります。
- ・商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によって異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高8,100円、最低540円(片道税込み)です。  
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高12,150円、最低1,555円(片道税込み)が必要となります。(平成27年9月1日現在)